

平成29年度第1回清瀬市廃棄物減量等推進審議会（要旨）

日 時：平成29年7月26日（水） 午前10時～

場 所：清瀬市中清戸地域市民センター 第2会議室

出席委員 石井会長、関委員、恩田委員、金子委員、水口委員、加藤委員、小畑委員、
阿久津委員、宮寺委員、有戸委員、大槻委員、織田委員（12名）

欠席委員 尾崎副会長、小糸委員、林委員（3名）

会議次第

1. 開会
2. 議題
 - ① 清瀬市一般廃棄物処理手数料について
 - ② その他
3. 閉会

配布資料

- ① 平成29年度第1回清瀬市廃棄物減量等推進審議会次第
- ② （事前配布）一般廃棄物処理手数料見直し案
- ③ （事前配布）一般廃棄物処理手数料見直し案（資料編）

審議経過

1. 開会
佐々木部長挨拶
門田課長挨拶
2. 議題
 - ① 清瀬市一般廃棄物処理手数料について

【事務局】

配布資料の説明。

【委員長】

質問、ご意見があれば述べてください。

【委員】

資料にある手数料算出の計算式について、どの自治体も同じような計算式で算出しているのですか？

【事務局】

必ずしも同じ計算式を使っているわけではなく、自治体によって異なっております。今回お示した計算式はあくまでも平成13年当時と同じ計算式で手数料を試算した際に、こういった結果になるのかをお伝えしています。

【委員】

わかりました。具体的な計算式から手数料案を算出しているのでミクロの視点から述べているように思えますが、市の全体の予算からの視点など、いわゆるマクロの視点から説明できるような資料はないのでしょうか。

【事務局】

今回は平成13年度にごみ袋有料化を行った際と同じ計算式を用いて、現在の実情に合わせて手数料の計算を行うといくらになるのかといったアプローチで算出しています。歳入歳出がいくらあって、どれだけのコストがかかっているのかといった市の財政面からの資料については、第2回の審議会でお示したいと考えております。

【委員】

財政面の資料は次回とのことですが、様々な要素を考慮した結果、現在の実情においてはごみ袋の値上げを行わないと厳しいとのことですね。

【事務局】

はい。そのとおりです。

【委員】

資料編の10ページ、ごみ袋の売上表において平成25年度のミニ袋の数字が間違っているように思いますがいかがでしょうか。

【事務局】

手持ちの資料では確認ができませんので、確認した上で、次回の会議で回答いたします。

【委員】

平成13年度にごみ袋の有料化があり、それから16年間、特に見直し等もなく、いきなりごみ袋の値段が倍の金額になると市民もびっくりしてしまうのではないのでしょうか。また、値上げするにしてもその周知は早めにしてもらわないと市民も困ると思います。

【事務局】

手数料については、段階を踏んで金額を引き上げるのも一つの手段であったとは思いますが、他市の状況や清瀬市の状況等様々な要素を考慮したところ、このようなタイミングとなってしまったことについては申し訳なく思います。

ごみの戸別回収の話についても今後議論することとなりますが、今回お示しした資料は、現在の収集体系において、現状これだけのコストがかかっている、市の財源も多くかかっていることをお伝えし、市民の皆様にご理解をいただいた上で、手数料の値上げについてお願いをしていきたいと考えています。

【委員】

議会の承認は必要なのですか。

【事務局】

手数料が変わるのであれば、市の条例に関わるので議会の承認は必要となります。

【委員】

今回の審議会は主に何を決めていきたいのですか。

【事務局】

まずは手数料の適正化についてのご理解をいただきたいと考えております。その後戸別回収の話へ移り、実行計画の策定に入っていきたいと考えております。

【委員】

市からは、ごみの処分費にいくらかかっている、市の予算がどうなっているのか、手数料の値上げに至る根拠と経緯についてしっかりと説明していただいて、市民の理解が得られるよう努力をしてもらいたいと思います。

【事務局】

説明会が必要であることは重々承知しており、次回お示しする財政面での資料も委員の皆様にはよく議論していただいたうえで、市民の皆様にご理解してもらえるような説明、及び根拠を示していければと考えております。

【委員】

市はごみの減量に向けてどういった努力をされていて、その効果はどうであったのか、そういった資料を出してほしいと思います。どうしてもごみ袋の値上げが必要であるという根拠を示してほしい。

【事務局】

よく検討し、次回の審議会において準備するようにいたします。

【委員】

年度計画を立ててやっていると思いますが、その結果はどうだったのでしょうか。その見直しを図り、次年度の計画に役立っているのでしょうか。

【事務局】

年度計画は毎年立てており、P D C Aサイクルにて業務改善にあたっています。

【委員】

今回の資料は平成27年までの数字となっているようですが、最新の平成28年の数字というのはいただけないのでしょうか。

【事務局】

決算議会を待ってお示ししようと考えていたところですが、次回お示しする財政面の資料については平成28年度の実績をもとに資料を作成する予定であります。

【委員長】

可能な限り最新の数字で作成をお願いします。

【委員】

容器包装プラスチックの手数料は据え置きであるとのことですが、ほかのごみ袋に比べて割安であるということで、市民も分別の徹底に努める可能性が高いと思います。そのため、それをいかに周知するかというのは大変重要であるように思います。

【委員】

不燃、プラスチックのミニごみ袋が廃止というのは、私たちからしてもほとんど使わないのでいい判断であると思います。ただし気になったのが、今後容器包装プラスチックの手数料についても値上げの可能性があります、その際にさらにほかのごみ袋も値上げするといったことにならないのでしょうか。

【事務局】

基本的に可燃ごみや不燃ごみというのは処理に費用がかかる場所ですが、再生利用を目的としているびんかんなどは手数料無料としています。このように循環型社会の構築のために資源化を推進していく手段として、手数料に差をつけるのは有効な手段であると考えています。このような観点から、今現在としては資源となる容器包装プラスチックの手数料の値上げは考えておりません。また、手数料の適正化を図る際には、事前にその周知は徹底して行っていきます。

【委員】

容器包装プラスチックはもっと安くてもいいのではないのでしょうか。

【委員】

歴史をひも解いていくと、容器包装プラスチックを分別するといった社会になるまでは、プラスチックはすべて埋め立てていました。これは自然に還らないものであるため、有限の埋め立て地はどんどん埋まっていきました。そこで石油製品であり資源にもなるプラスチック製品を資源化する技術が生まれ、熱還元し、熱利用する技術もどんどん進歩しました。これにより有限であった最終処分場の延命化を図ることもできたわけです。

いわゆる資源であり、有価売却もできるアルミなどは処分費もいらなくなっているわけですが、容器包装プラスチックは売ってお金になるのかどうかといわれると、実はお金にはならないのです。

つまり、容器包装プラスチックもびんかんとともに資源なのだから処分にお金はいらないとする意見もありますが、詳しく見ていくと売れるものではないプラスチックは、資源ではあるけれども多少のお金を取る必要があるという考えもあります。そのため容器包装プラスチックのごみ袋の値段は自治体によって様々です。

業者としての立場から言わせてもらえるのであれば、プラスチックのごみ袋が安ければ市民の皆様もたくさんプラスチックを分別して出してくださいませ。しかし安ければ安いほど、安く出せるからと言ってプラスチックのごみ袋の中に可燃ごみや不燃ごみなどいろいろと混ぜて出されてしまうのが現状なのです。

そうになってしまうと、ごみの収集過程において、異物混入物としてたとえ一部はき

れいな容器包装プラスチックであるとしても焼却施設にて焼却してしまうのです。また一部のそうしたマナーの悪い方のせいで、ごみの収集過程においてごみ同士が接触することになるので、きれいなプラスチックがあっても汚されてしまうこととなります。このように、プラスチックのごみ袋だけを安くするというはそのメリット・デメリットがあるため、価格設定のバランスは非常に難しいものなのです。

ただしそこでごみの戸別回収と組み合わせることで、例えばマナーの悪い家庭のごみはおいてくればいいわけですから、その差をつけたごみ袋の価格設定の効果が高まることになるでしょう。

【委員】

資源化すればお金になるのではと思っていましたが、いろいろと考えなければならぬことも多いのですね。

【委員】

ごみ袋の手数料の見直しということで、ごみ袋自体の見直し、例えば材質の見直し等は検討されていないのでしょうか。

【事務局】

市民からも多くの問い合わせをいただいているところです。例えば近隣市においてはロール型のごみ袋等を採用し、破れにくい材質としている自治体もあります。市民の皆様のご意見をよくうかがいながら、またごみ袋の作成の単価との兼ね合いを考慮しながら検討していきます。

【委員】

ごみ袋の作成の業者等は毎年変えているのですか？

【事務局】

毎年入札によってごみ袋の作成業者は選定しているところです。ただし市の求める仕様の変更を検討することで、材質の変更等も可能であると考えます。

【委員】

ごみ袋の色が違ったりするケースが見受けられるが、ごみ袋の検査はしているのでしょうか。

【事務局】

毎年、ごみ袋の検査は納品の際に確認を行っています。今のところ市ではそのようなごみ袋は確認できておりませんが、袋をお店に卸した後の在庫の保管方法等によっては、袋の色味の変化等も可能性としては考えられます。近隣市の状況を調査し、清瀬市でも改善できる点はないか検討して参りたいと思います。

【委員】

次回の開催日程等は決まっているのでしょうか。

【事務局】

9月の下旬を予定しておりますが、決定次第皆様にはすぐお知らせいたします。